

## 「三度目のがんを乗り越えて」

2019年04月11日

昨年8月、定期検診を受けたところ、CT撮影で、お腹の右半分に大きな炎症が映し出され、即、入院になった。検査の結果、悪性リンパ腫と診断された。手術ができない血液のがんのため、抗がん剤と放射線治療を、半年間ほど受けてきた。悪性リンパ腫は60種以上もあるそうで、私のはバーキットと言われる、百万人に1人がかかる稀有な型で、しかも、進行の速いがんであった。主治医は完治を目指して治療しますと仰ってくださいましたが、炎症の広がり、私の年齢などから容易な病気でないことを感じた。私は初めに、医学的に無理で、また、私の体力が持たない場合は、延命措置を取らずに、速やかに天に送ってくださいと依頼した。妻と息子に、死後のことについて話した。

6種類の抗がん剤を4日間に渡り注入し、しばらく休み、体力の回復を見て、再度、抗がん剤を入れる。それを6クール続けて、癌を撲滅する治療である。一回目、抗がん剤を入れたところが、免疫力が下がり、感染症になり、40度近い高熱に、1週間くらい襲われた。お腹の炎症が広がらないよう放射線治療も受けた。体力が回復し、抗がん剤治療を続けたが、副作用が起こる。貧血、吐き気、下痢、排尿障害、食欲不振（味覚障害）、指先のしびれなどである。抗がん剤はがんを死滅させる強力な薬だが、良い細胞にもダメージを与え、貧血になる。貧血は体を動かすことが容易でなくなり、その倦怠、疲労感は、味わった者しか理解できない苦しみである。私は二度、失神した。痛みがないことはありがたいことであった。感染症のため治療は大幅に遅れたが、成人病や持病がなく、体力も年の割にはあったので、幸いにも抗がん剤を6回注入することができた。注入できなくなった場合、がんが増殖し、死に至る訳である。炎症を起こした大腸の内視鏡検査とペット（陽電子放射断層撮影）の検査をした。ペット結果を診た医師から、万全を尽くすために再度、大腸の検査をした方がよいと言われ、内視鏡検査を受けた。今後、血液、組織検査、CT撮影も予定されている。しかし、主治医から体重も増え、体力もついて来ているようなので、以前のように日常生活を過ごしてよいと言われた。長く、苦しい闘病生活だったが、日常生活を取り戻せて、心から嬉しく思っている。医学の進歩に感銘を受けた。落ち入りそうな症状になる前に、医師たちは迅速に適切な治療をし、また、看護師たちとも良く連携し合っていた。病状の開示と説明に時間を惜しまず、感謝であった。これからも、様々な検査を受け続けることになるが、再発せず、無事であれば、5年後くらいに「完治」となるらしい。この病気には、検査の終わりがなく、先は、まだまだ続くという訳である。支え、励ましをくださった多くの方々に感謝の思いでいっぱいである。私は、食道がん、胃がん、悪性リンパ腫と、三度のがんを乗り越えられたと、ここで一段落としたい。

私の病気を心配し、多くの方々から、お見舞いと励ましをいただいた。私はこんなに愛されていたのかと、牧師冥利に尽きると涙した。主治医から厳しい医療によく頑張られましたと幾度も言われたが、皆さんの祈りが支えであった。辛くて心が折れそうになっても、立ち上がる勇気を与えられ、本当に感謝であった。妻も、ほぼ毎日見舞いに来てくれ、食べられるものを用意してくれ、足をマッサージしてくれ、大きな慰めであった。気分の良い時に、ホームページの聖書講解を書き続けた。素直に読み、真っ直ぐに書くことが、私の大きな慰め、励ましであった。聖書の言葉は病む私に神の近さを改めて示してくれた。妻の校正の労は書き続ける大きな力であった。国の医療費を何百万円も費やした。これから、高齢の私に何ができるかと思うが、生と死について思い巡らす時を与えられた。しばらくの命を与えられたことを踏まえ、悔いのない日々を過ごしたいと思っている。